

新型コロナウイルスと闘いましょう！ 密閉、密集、密接を避けて、手洗い、うがいを忘れずに！

“ふるさとちば”のための政策推進を

# 茂呂つよし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

## ヤングケアラー 早期発見が可能な体制を

### 相談しやすい環境をつくる

#### 12月議会文教常任委



議場で委員長報告する茂呂県議

八千代市選出で教育振興に注力する茂呂剛(もろつよし)県議は12月2期目には県議会文教常任委員長を務めています。12月定例県議会の同委員会の審議で、付託された一般会計補正予算案2議案を可決すべきと決めました。今年度初めて行った実態調査に基づくヤングケアラー対策などの質疑の様子を紹介します。

#### 認知度向上も必要

自民党委員 ヤングケアラーの対策について2問伺う。県が令和4年11月4日にヤングケアラー県内実態調査、アンケート調査の概要を発表した。本年度初めて行ったこの実態調査の結果を受けて、県は今後、有識者や学校関係者等で構成する調査研究委員会にて実態調査結果の詳細な分析、課題の検証、効果的な支援策を含む報告書を年度内にまとめることとしている。

支障策としてヤングケアラーが自分の思いを吐露できるような相談環境を整備することは、心理的な支援だけでなく、福祉支援につながる契機ともなると思う。そこで伺う。ヤングケアラーが相談しやすい環境の整備に向けて、どのような取り組みをいくのか。

児童生徒安全課 各学校で実施する、教育相談アンケートにヤングケアラーに関する項目を入れるよう依頼している。また、相談しやすい相手として、「学校の先生」「保健室の先生」それから「スクールソーシャルワーカー」や「スクールカウンセラー」など回答した子どもたちが50%と最も多い回答となっている。

ここから考えると、SNSに加えて、学校での相談しやすい環境づくりを取り組んでいきたいと思うが、県の実態調査によると「ヤングケアラー」という言葉をこれまで聞いていなかったか」という問いに対して「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童生徒は、全体で約3割程度にとどまっている。また「自分がヤングケアラーに該当する」と回答したのが65.9%、「家族のお世話をしている」と回答している児童生徒に限っては、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童生徒は3割にも満たない。学校におけるヤングケアラーの早期発見には教職員の対応力向上とともに、まずは児童生徒の認知度を高めることが重要であると思う。そこで伺う。ヤングケアラーに対する児童生徒の認知度を向上させていくために、どのように取り組んでいくのか。

頼るとともに、SNS相談や子どもsosダイヤル等の積極的な周知により、相談先の選択肢を広げることやヤングケアラーが相談しやすい環境を整備していく。

自民党委員 SNS相談。それ以外にもsossダイヤルの周知というような回答だったが、県が発表したこの県内実態調査の概要を見ると「このような方法で相談に乗ってほしいか」という質問に50%の子どもが「直接来て」と回答している。また、相談しやすい相手として、「学校の先生」「保健室の先生」それから「スクールソーシャルワーカー」や「スクールカウンセラー」など回答した子どもたちが50%と最も多い回答となっている。

●県政と八千代市に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

**茂呂つよし 県事務所**

〒276-0046 八千代市大和田新田1092-7  
TEL047-480-0244 FAX047-458-7033

もう1点は実態調査によると「自分がヤングケアラーに該当する」と回答したのが10%未満。また「たれかに相談するほどの悩みではない」「家族以外の人に相談するような悩みではない」という風に回答したのが60%以上となっている。

つまり、ヤングケアラーには家庭内のプライベートな問題であり表面化しにくいという特徴があることから、学校での、教員による気づきというのが、何よりも大切かと思う。ぜひ健康福祉部とも密に連携を取りながら、早期発見が可能な体制づくりを組織横断的に進めていきたい。

# 充実した学校教育を

## 選考工夫で教員採用増加

**自民党委員** 諸般の報告の中で、本年度の教員採用試験で大幅増員ができたこと、これは大変ありがたいことであり、県教委の努力

といたことで感謝申し上げます。その中で教育長の報告の中の記述で「本年度講師として勤務している方で、一定の条件を満たす方を二次選考免除とするなど、志願しやすい選考方法の改善を図りました」とある。正直に言って、その人の見極めを短い教育実習や面接

**文教常任委員会**は、工業教育におけるコンソーシアムの運営状況と実習機器のデジタル化対応を調べるために県立千葉工業高校の視察を行った。

コンソーシアムでは企業や大学といった学外の機関と連携し、授業実施や就職活動の支援を受けている。

今後の課題として、大学の指定校推薦などにあたって、工業科の課程にあった入試制度の仕組み構築が挙げられた。また、専門学校への進学を希望する中学生を増やす取組みの強化方針が報告された。実習棟や実習工場に設置してある3Dプリンタ実習装置や平面研削盤を使った学習内容の説明と質疑応答も行った。設備に関して昭和30〜40年代の機械を職員がメンテナンスしながら使っていることを確認。最新の機械導入については変化が激しいこともあり、状況を見極めた上で方向性を考えていくとの回答があった。

## 県立千葉工業高校を視察



積極的に質問する茂呂県議（右）

**自民党委員** 県立高校、また、公立の中学校で体育の授業の中の武道、武道領域というのだろうか、これをやらないところがあることを聞いた。実施状況を確認したい。

**保健体育課** 令和4年度の学校体育科調査によると、公立中学校では、367校中、柔道は208校、剣道は179校、相撲等その他は12校で、未実施の学校は3校となっている。

## 多様な領域にふれる工夫を

**教職員課** 今年度から導入

改め確認させていたただく。今回の一定条件を満たすというのは、どういった条件か。

**自民党委員** 県立高等学校は、367校中、柔道は68校、剣道は62校、相撲等その他は8校、未実施校は12校となっている。

**自民党委員** 未実施校があるというお話だった。なぜ未実施だったのか、理由までわかたら教えてほしい。

**保健体育課** 学習指導要領によると、中学校での武道の授業は、1年生か2年生のどちらかで必ず実施することになっている。未実施の学校は、武道を履修選択する生徒がいなかったり、学校の施設、用具や体育科教諭の配置状況で安全を確保することが困難であったりしている。

たため武道の授業を選択しなかったとのことだった。

**自民党委員** 学校で最初から武道ではなく、ダンスであるとか、そういう風な形である選択をするものをこれとしている所もあるように聞いている。この辺はいかがか。

**保健体育課** 県教育委員会としては、武道に限らず、学習指導要領に示されているすべての運動領域の特性に触れることが大切であると理解している。武道については日本の伝統文化に触れる機会であり、その所作を学ぶことも重要であるので、学習指導要領の中に記載されている通りに全ての領域を選択できるように工夫し、学習の充実を図るよう助言をしていかなければならないと考えている。

**自民党委員** 短い授業の中であつたとしても、文化としての痛みの体験ができるというのは、いいんじゃないか。今の子はケンカもまともにできない子が多いから事故が起る。つまり、どこを叩かれたら痛い、どこを殴られたら自分が危ない、そういうような体験を、武道を通じて子どもたちが成長する過程で、ぜひ、所作、動作、礼法いろんなものを内包しているのを、子どもがやれる環境を整えてほしい。強制的にやれという話ではない。あくまでも選択だろうが、その環境がある以上はぜひ取り組んでほしい。



文教常任委員会を委員長として仕切る茂呂県議（右から2人目）